

発見いっぱいのに『宝箱』

県NIEセミナー 実践指定校の活動 ①

2月にオンラインで開かれた2020年度県NIE（教育に新聞を）セミナーでは、実践指定校の担当教諭が新聞を使った取り組みを報告した。今回は高校2校の内容と、主催した県NIE推進協議会の阿部和久会長の講評を紹介する。

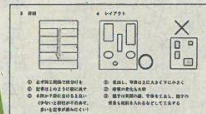
（柴崎愛）

＝教諭の所属は20年度

新聞づくり

美術：デザイン的な視点から
地理：驚きと発見を重視

事例の学習を踏まえ



美術のアートの一部



米沢東高の報告スライドの一部

新聞作り 価値観共有

米沢東高 高橋英路教諭

本校では、校訓「修誠」^{しゆじやう}（真心、誠実の意）に基づき、従来から「価値観の共有」に焦点を当てた活動をしている。それをNIEを使ってさらに引き上げようと実践に取り組んだ。

新聞作りは、美術の授業でデザイン的な視点から、地理の授業で驚きと発見を重視して行った。教科によって違う新聞ができて面白かった。まわし読み新聞は、教育、医療福祉など進路分野ごとに有志を募って実施。同じ切り口でも選ぶ記事が違ふし、新聞によって論調が異なる。新聞は多様な価値観に触れるという点で重要な役割を果たしていることを再確認できた。

年度末には、自分の意見を書く・発表する、グループで話し合うといった活動を肯定的に捉える生徒が多くなり、一定の成果があったように感じる。21年度も価値観の共有を重視しながら、新聞を活用した取り組みを深化させていきたい。